

# 委員会調査(研修)報告書

NO.

平成 30年 6月 6日

胎内市議会議長

森田幸衛様

(報告者) 産業観光常任委員会

委員長 小野徳重

産業観光常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 平成 30年 5月 21日 至 平成 30年 5月 23日 泊 日 ( 3 日間)	調査・研修 場 所	・宮城県登米市 ・青森県八戸市
調査・研修 事 項	・宮城県登米市 6次産業化、地域ブランド化の取組について ・青森県八戸市 八戸ポータルミュージアムについて		
調査・研修 出席者(参加者)	小野徳重、渡辺宏行、渡辺 俊、高橋政実、榎本文雄、渡辺栄六 佐藤陽志、羽田野孝子、八幡元弘		
相手方(対応者)	・宮城県登米市 市議会議長 及川昌憲、議会事務局長 丸山 仁 産業経済部産業連携推進課長 千葉昌彦 産業経済部産業連携推進係長 齋藤友一 ・青森県八戸市 八戸ポータルミュージアム副館長 高館 強 議会事務局主査 新井田 昇		

調査の結果または概要

<宮城県登米市>

登米市は、平成17年4月に登米地域9町が合併し誕生した。人口は、約8万人である。地理的には、宮城県北東部に位置し、西部は丘陵地帯、東部は山間地帯であり、その間に平坦で肥沃な県内有数な穀倉地帯が広がり、環境に負担をかけないように農薬や化学肥料を減らし、安心安全な環境保全米「ササニシキ」「ひとめぼれ」の主産地として有名である。また、西部にはラムサール条約指定登録湿地の「伊豆沼・内沼」をはじめ長沼がある。

農業については、農業経営体数6,306経営体、農業産出額315.8億円でともに宮城県第1位である。地域全体の約8割で減農薬、減化学肥料に取り組み「環境保全米」（特別栽培米）の米作りを実践している。（宮城県全体では約4割。）園芸作物ではきゅうり、キャベツの生産も盛んである。畜産に関しては、豚飼養頭数67,579頭で県内1位であり、本州最大の和牛の産地でもある（25,402頭）。加えて、耕畜連携の資源循環型農業を行っており、市内に7つのたい肥センターを設け、稲作農家と畜産農家が連携し、資源の循環に取り組んでいる。ブランド化・6次産業化の取り組みとして、登米ブランド認証制度を設けており、平成26年1月にリニューアルし、生産量などを考慮し13品目を選定し、認証基準を設定してある。6次産業化については、6次産業化法に基づく国の「総合化事業計画」認定事業者は14事業者であり、また市の単独事業「ビジネスチャンス支援事業」による地域ビジネス支援も行っている。登米の地域資源を活かした起業・創業支援する登米市ふるさと創生ベンチャー起業支援事業にも取り組み、地域に根ざした雇用の創出を図っている。

<青森県八戸市>

八戸市は、太平洋に面した青森県南東部に位置し、夏は偏東風（ヤマセ）の影響で冷涼であり、冬は晴天が多く乾燥し、降雪量が少なく、日照時間も長い気候となっている。平成17年3月に八戸市と南郷村との合併により、現在の八戸市となった。人口は約23万人である。産業としては、臨海部に大規模な工業港、漁港、商業港が整備され優れた漁港施設や背後施設を有し全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市となっている。

平成23年2月には、新たな交流と創造の拠点として八戸ポータルミュージアム（通称：はっち）が開館した。これ以降八戸ポータルミュージアムを通称の「はっち」として記述する。「はっち」建設の背景は、中心市街地の衰退が進み、中心市街地の活性化と“まちの顔”の機能も果たすことを目的とした。「はっち」にちなんで“8”にこだわっている、8つのミッション、8角形の中庭、8個の獅子頭など。偶然の話であるが、開館1周年記念セレモニーの日に、888,888人目の入館者があった。館内を巡ると、八戸の歴史や産業、所縁のある有名人などを知ることができ、フリースペースも設けられており、また地元の物産も販売しており、誰でも気軽に訪れることができるような配慮がされていた。「はっち」の事業としては、①会所場づくり②貸館事業③自主事業の3つであり、何度も訪れたいくなる複合施設を目指している。「はっち」の効果は、開館5年4か月で来館者500万人達成。中心街に2013年時点で50事業所が新たに開設している。当初の目的である中心市街地の活性化と“まちの顔”としての機能を果たしている。

## 調査の所見・感想

### <宮城県登米市>

地域の特徴、特性を活かしながら、様々な試行錯誤と国の制度や補助金を活用し、ブランド化を図り、その品質とブランドイメージを維持し、更なるブラッシュアップを行うことの重要性とその取り組む姿勢と情熱を感じ、大変参考となった。規模は異なるが、胎内市の農業、畜産、園芸とも共通する特徴や課題があり、胎内市の産業を再認識する実りある視察となった。

### <青森県八戸市>

中心市街地の活性化とまちの顔の創出という課題に対し、コンセプトを決め八戸市にちなんだ“8”にこだわり、八戸市民はもちろんであり、市外の人にもわかりやすく、親しみやすい施設となっていた。ポータル（玄関口）の名の通り、八戸市のアピールする機能を果たしていると実感でき、胎内市においても、同様の課題があり、参考にすることや見習うことが多くあると痛感した。